

トピック  
A

## 子どものプロスポーツ観戦

筑波大学 体育系 准教授 仲澤 眞

4～9歳の子どものプロスポーツ観戦には、家族が観戦行動のエージェントとして大きく影響していると考えられる。本稿では、子どものプロスポーツ観戦状況について、性差や保護者との関係を中心に検討した。

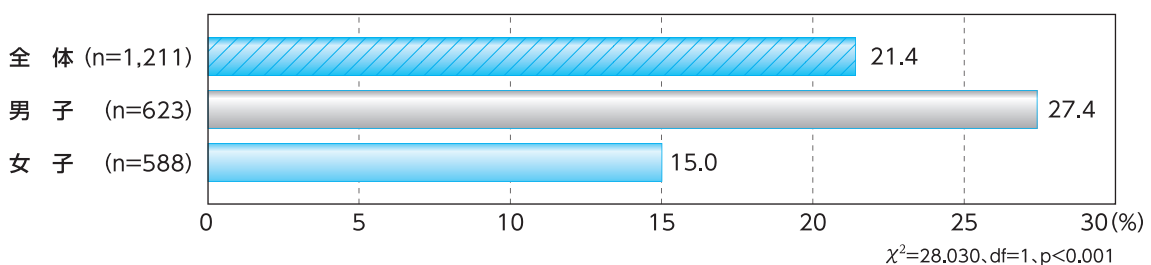
## A-1 4～9歳のプロスポーツ観戦状況

図A-1に子どものプロスポーツ直接観戦率を示した。プロスポーツ直接観戦率は、「プロ野球 (NPB)」「Jリーグ (J1・J2)」「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」「プロバスケットボール (bjリーグ)」の4種目を対象とし、過去1年間にスタジアムや体育館などへ足を運んで直接スポーツの試合を観戦した者の割合とした。全体のプロスポーツ直接観戦率は21.4%であり、わが国の4～9歳の子どものプロスポーツ直接観戦人口は141万人と推計できる。性別にみると直接観戦率は男子27.4%、女子15.0%であり、女子に比べて男子の方が12ポイント程度有意に高かった。

図A-2にプロスポーツ種目別にみた子どものプロスポーツ直接観戦率を示した。全体では「プロ野球 (NPB)」が

13.5%と最も直接観戦率が高く、次いで「Jリーグ (J1・J2)」7.8%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」2.1%、「プロバスケットボール (bjリーグ)」1.2%であった。性別にみると、いずれの種目も男子の方が高い観戦率を示している。特に、「Jリーグ (J1・J2)」は7.3ポイント、「プロ野球 (NPB)」は6.8ポイント男子が女子を上回っており、有意な性差がみられた。

次に、図A-3にプロスポーツ直接観戦経験の有無別にみたテレビでの観戦状況を示した。全体では、直接観戦者では、テレビでスポーツを「よくみている」15.2%、「時々みている」50.4%であり、65.6%が普段テレビでもスポーツを観戦すると回答した。一方、非直接観戦者では、「よくみている」4.3%、「時々みている」28.9%であり、テレ



【図A-1】過去1年間の子どものプロスポーツ直接観戦率(全体・性別)

注1) 子ども:4～9歳。

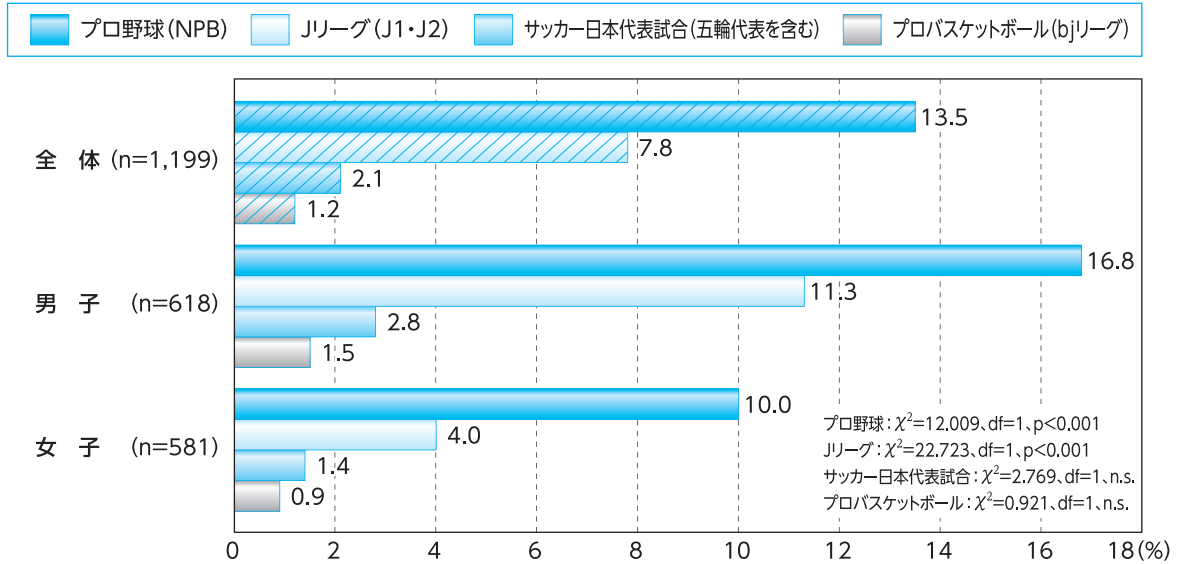
注2) プロスポーツ直接観戦率:プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)、サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)、プロバスケットボール(bjリーグ)のいずれかを、過去1年間に直接スタジアムや体育館などに行って観戦した者の割合。

資料:笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

ビでの観戦率は3割程度にとどまっていた。

性別にみると、プロスポーツ直接観戦者は男子では7割を占めるが、女子では「よくみている」「時々みている」と回答した者は半数にとどまっており、有意な性差が認め

られる。一方、非直接観戦者における「よくみている」「時々みている」と回答した割合は、男女ともに3割程度であり、有意な性差はみられなかった。

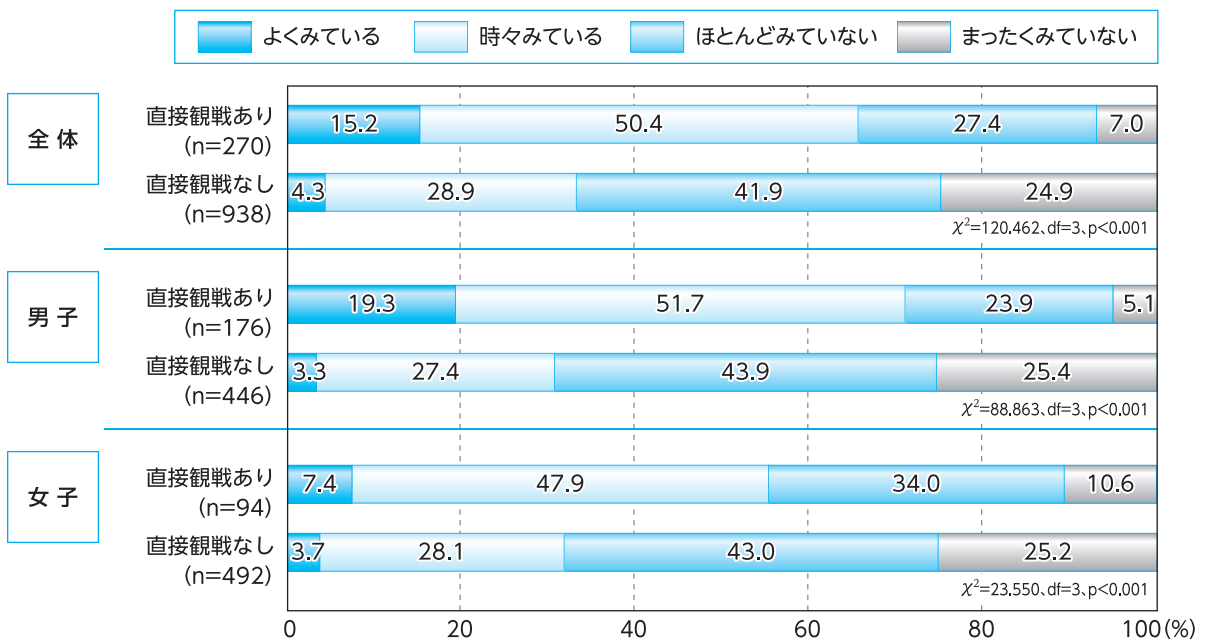


【図A-2】種目別にみた子どものプロスポーツ直接観戦率(全体・性別)

注1) 子ども: 4~9歳。

注2) プロスポーツ直接観戦率: プロ野球 (NPB)、Jリーグ (J1・J2)、サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)、プロバスケットボール (bjリーグ) のいずれかを、過去1年間に直接スタジアムや体育館などに行き観戦した者の割合。

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2013



【図A-3】プロスポーツ直接観戦経験の有無別にみたテレビ観戦の有無(全体・性別)

注) プロスポーツ直接観戦あり: プロ野球 (NPB)、Jリーグ (J1・J2)、サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)、プロバスケットボール (bjリーグ) のいずれかを、過去1年間に直接スタジアムや体育館などに行き観戦した者。

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2013

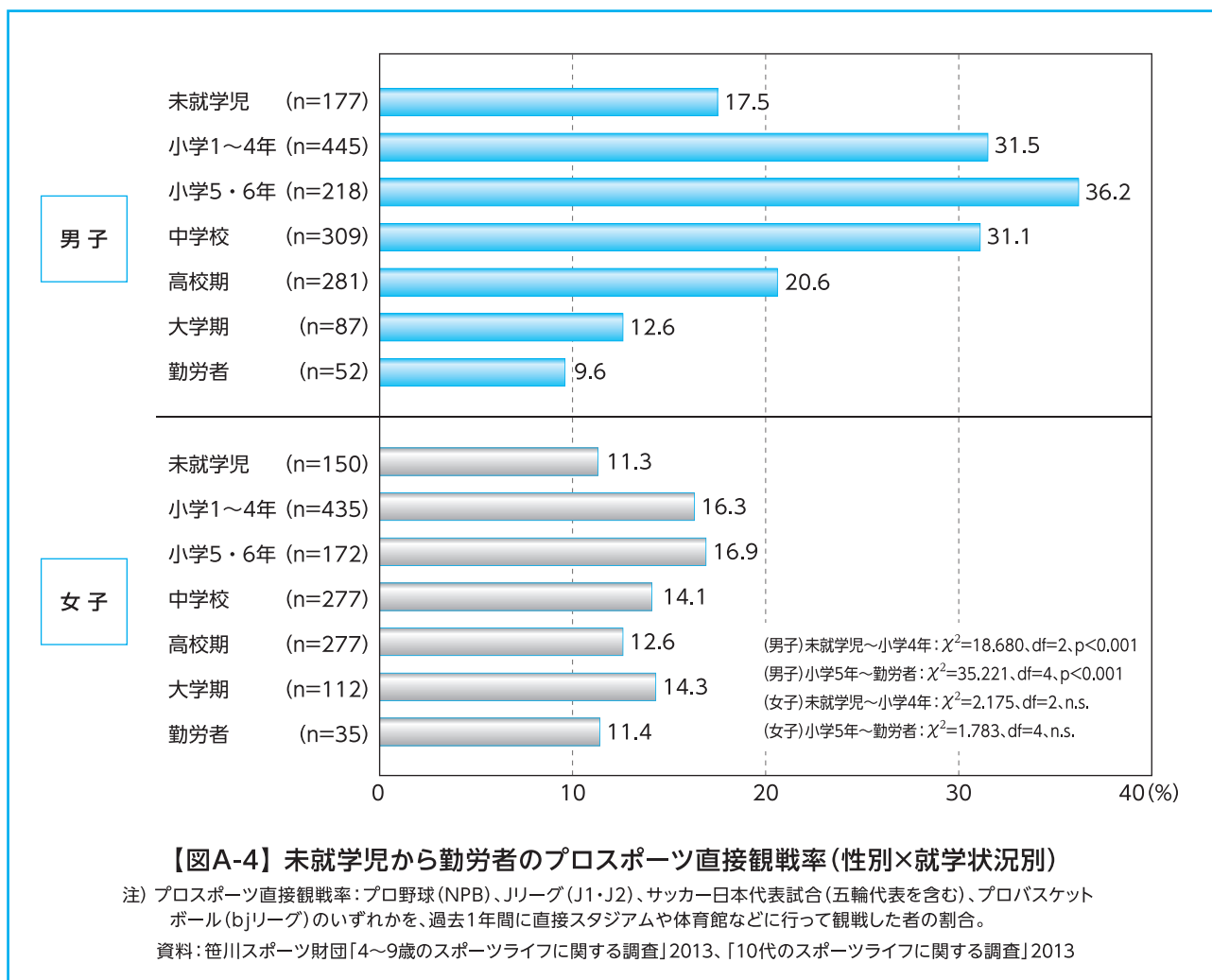
## A-2 4歳から19歳にみるプロスポーツ観戦状況

子どもから青少年にかけてのプロスポーツ観戦状況を知るために、「10代のスポーツライフに関する調査」(2013)の結果も含めて分析を行った。図A-4に、過去1年間のプロスポーツ直接観戦率を性別・就学状況別に示した。未就学児では、性別による直接観戦率に大きな差はみられないが、小学1~4年では直接観戦率は男子が31.5%と14ポイント増加するのに対し、女子では16.3%と5ポイントの増加にとどまり、就学後に性差が大きくなる。しかし、大学期では直接観戦率は男子12.6%、女子14.3%であり、男子に比べて女子の直接観戦率の方が高い割合を示した。

次に図A-5に、直接観戦率の高い上位2種目であるプロ野球(NPB)とJリーグ(J1・J2)に着目し、プロスポーツ直接観戦の同伴者を性別・年齢区分別に示した。4~

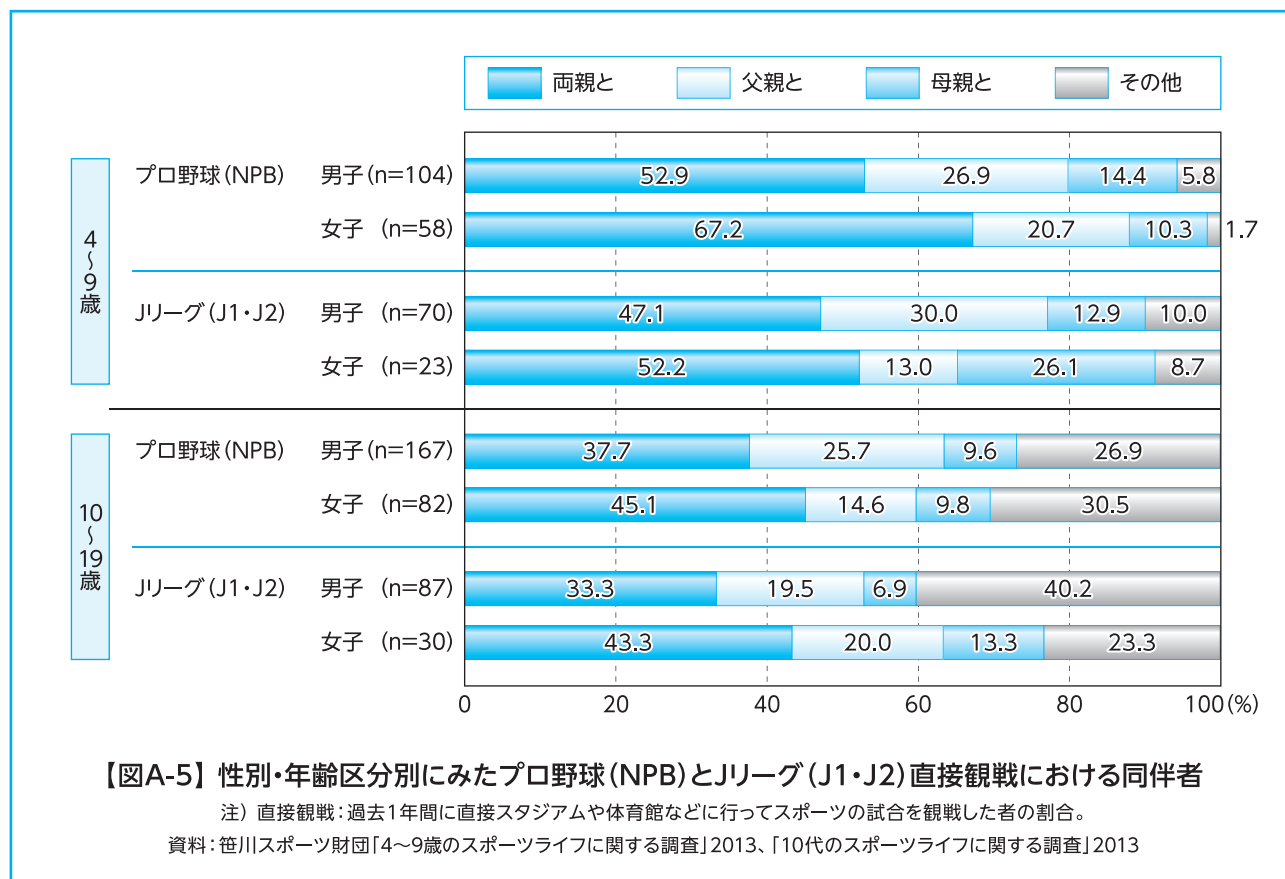
9歳では、プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)ともに、両親、父親または母親の占める割合が大きく、9割を超える。プロ野球(NPB)では、「両親と」の割合は男子52.9%、女子67.2%と、女子では両親との観戦が7割近くにのぼる。Jリーグ(J1・J2)では、男女ともに半数が「両親と」であり、次いで男子では「父親と」(30.0%)、女子では「母親と」(26.1%)であった。男子では、プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)ともに父親との観戦が相対的に多い傾向がみられたが、女子のJリーグ(J1・J2)において母親との観戦が多い結果は興味深い。

10~19歳になると、プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)ともに両親と観戦する割合は3割から4割程度となり、父親や母親以外との観戦が増加する。特に、男子のJリーグ(J1・J2)ではこの傾向が顕著となり、両親、父親ま



たは母親の占める割合は6割であり、友だちや部活動・クラブチームの仲間などのその他が4割に達する。一方、女子では両親、父親または母親との観戦は76.6%と7割

以上を占め、友だちとの観戦は2割程度にとどまる。女子のJリーグ (J1・J2) 観戦では、父親や母親の存在が大きい状況がうかがえる。



## A-3 子どものプロスポーツ観戦と保護者の意識や態度

表A-1に子どものプロスポーツ直接観戦経験の有無別にみた保護者のスポーツ観戦に対する意識を性別に示した。「自分の子どもにスポーツの観戦をさせたいと思う」「親子でスポーツ観戦をしたいと思う」では、男女ともに直接観戦者では9割以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているのに対して、非直接観戦者では7割程度にとどまっていた。これらの項目では、子どものプロスポーツ直接観戦経験の有無と保護者の意識との間に有意な関連性がみられており、保護者がスポーツ観戦に対して肯定的な意識を持っている子どもほど、プロスポーツを直接観戦している状況が示された。一方、「親子でスポーツ観戦をすることは、子どもがスポーツに興味を持つ

っかけになると思う」では、男子においては直接観戦経験の有無と保護者の意識に有意な関連性が認められたが、女子では確認できなかった。

次に、表A-2に子どものプロスポーツ直接観戦経験を家族での運動・スポーツ実施別に示した。全体では、直接観戦者の78.7%が「よくしている」「時々している」と回答したのに対し、非直接観戦者では65.6%と、直接観戦者と非直接観戦者では家族での運動・スポーツ実施の割合に10ポイント以上の差がみられた。

子どもの性別にみると、「よくしている」「時々している」と回答した割合は、男子の直接観戦者では82.9%、非直接観戦者では65.5%であり、プロスポーツを直接観戦して

いる子どものほうが、家族での運動・スポーツの実施率が有意に高い結果が示された。女子においては、直接観戦者では70.4%、非直接観戦者では65.6%が「よくして

いる」「時々している」と回答しており、男子と同様に直接観戦者のほうが家族との運動・スポーツ実施率が高い傾向がみられたが、男子ほど顕著な違いはみられなかった。

【表A-1】子どものプロスポーツ直接観戦経験の有無別にみた保護者のスポーツ観戦に対する意識(子どもの性別)  
(%)

			そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	χ <sup>2</sup> 値	
男子	自分の子どもにスポーツの観戦をさせたいと思う	直接観戦あり(n=171)	64.3	29.8	5.8	0.0	56.014***	
		直接観戦なし(n=452)	33.4	41.8	22.6	2.2		
	親子でスポーツ観戦をしたいと思う	直接観戦あり(n=171)	64.3	29.8	5.8	0.0		73.543***
		直接観戦なし(n=452)	33.4	41.8	22.6	2.2		
親子でスポーツ観戦をすることは、子どもがスポーツに興味を持つきっかけになると思う	直接観戦あり(n=171)	74.3	25.1	0.6	0.0	38.884***		
	直接観戦なし(n=452)	48.5	41.4	8.8	1.3			
女子	自分の子どもにスポーツの観戦をさせたいと思う	直接観戦あり(n=88)	50.0	42.0	8.0	0.0	27.476***	
		直接観戦なし(n=500)	26.6	43.6	25.8	4.0		
	親子でスポーツ観戦をしたいと思う	直接観戦あり(n=88)	50.0	42.0	8.0	0.0	24.329***	
		直接観戦なし(n=500)	26.6	43.6	25.8	4.0		
	親子でスポーツ観戦をすることは、子どもがスポーツに興味を持つきっかけになると思う	直接観戦あり(n=88)	58.0	35.2	6.8	0.0	2.711n.s.	
		直接観戦なし(n=499)	48.9	42.3	8.4	0.4		

注1) 子ども:4~9歳。

注2) プロスポーツ直接観戦あり:プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)、サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)、プロバスケットボール(bjリーグ)のいずれかを、過去1年間に直接スタジアムや体育館などに行って観戦した者。

資料:笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2013

【表A-2】家族での運動・スポーツ実施と子どものプロスポーツ直接観戦経験の有無(全体・子どもの性別)  
(%)

		家族での運動・スポーツ実施				χ <sup>2</sup> 値
		よくしている	時々している	ほとんどしていない	まったくしていない	
全体	直接観戦あり(n=258)	23.3	55.4	18.2	3.1	26.465***
	直接観戦なし(n=944)	12.7	52.9	30.2	4.2	
男子	直接観戦あり(n=170)	25.3	57.6	14.1	2.9	25.000***
	直接観戦なし(n=449)	12.9	52.6	29.8	4.7	
女子	直接観戦あり(n=88)	19.3	51.1	26.1	3.4	3.115n.s.
	直接観戦なし(n=495)	12.5	53.1	30.5	3.8	

注1) 子ども:4~9歳。

注2) プロスポーツ直接観戦あり:プロ野球(NPB)、Jリーグ(J1・J2)、サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)、プロバスケットボール(bjリーグ)のいずれかを、過去1年間に直接スタジアムや体育館などに行って観戦した者。

資料:笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2013



以上のように、子どものスポーツ観戦行動には家族の影響は大きく、とりわけ4~9歳の幼少年期の子どもや女子において、その傾向は強い状況がうかがえた。子どもがスタジアムや体育館などで直接スポーツを観戦する機会を得られるかどうかは、父親や母親の観戦行動と連動

している。また、子どものスポーツ観戦の有無は、保護者のスポーツ観戦への考え方や、家族での運動・スポーツ実施の有無とも関連性がみられ、子どもの観戦行動には保護者の運動・スポーツに対する意識や養育態度も影響を与えている実態が明らかとなった。